

# 2022年度 活動実績報告書

2023/2/19

(敬称略)

No.	月	日	曜日	行事	場 所	講師	天候	主担当者	観察菌種	参加人数	観 察 報 告
別枠	3	27	日	新入会員学習会 兼下見	宝ヶ池公園	—	曇のち晴	木村 畑中	—	新会員2名 旧会員13名	土佐運営幹事の指導の下、実際のきのこを前にしての説明を新入会員はメモを取りながら熱心に聞き、質問も多く出された。オオセミタケ採取体験も丁寧に実践できた。
1	4	3	日	観察会 No.1	宝ヶ池公園	下野先生	曇のち雨	木村 畑中	30種	会員25名	早春のきのこオオセミタケ、トガリアミガサタケ、ツバキキンカクチャワンタケが見られた。材上菌が19種、子囊菌は10種だった。2～3月の気温が低かった為か、全体的にきのこの発生が少なかった。午後に雨予報が出ている為、若干観察コースを短縮した。
2	5	22	日	交流会(午前) 学習会①(午後)	高槻市立文化会館 (高槻現代劇場)	齋木先生	—	河村 木村	—	会員28名	交流会では①自己紹介と研究会への要望・疑問②研究会が抱える課題について自由に発言・討論をした。課題として観察地の新規開拓の必要性、天候による実施の判断について、会員名簿、実習認定行事等について話し合った。学習会では齋木達也先生を講師に迎えて①きのこの見分け方②採取の注意点③楽しむためには④珍しいきのこの紹介等の講演を聞いた。生きのこを提示されての分かり易い楽しい興味深いお話だった。
3	6	5	日	実習認定行事 ①	谷川きのこ園	—	曇り	五家、岡本 河村	—	講座生12名 会員9名	コロナ感染対策を考慮して募集人員を15名に絞ったところ、12名の参加であった。2グループ編成で実施。会長挨拶の後、谷園長のレクチャーを受けて実習に入る。懇親会は今年も中止した。
4	6	26	日	観察会 No.2	若山神社周辺	下野先生	曇のち晴	畑中 木村	67種	会員27名	集合場所で早々にキヌガサタケの出迎えを受けたがその後も竹藪等で5～6本を確認する。テングタケ科3種、ベニタケ科8種、イグチ科9種、アセタケ科6種など、この時期らしいきのこが多く発生していた。コースと時間配分を工夫したが、今後も天候や現場の変容等に応じた工夫が必要かも知れない。
5	7	24	日	観察会 No.3	龍谷の森	下野先生	快晴	土佐	80種	会員23名	猛暑の中、コロナ禍も考慮して、従来のコースを変更した。また、同定場所も大学構内広場を止めてバイオトイレ付近とした。イグチ科が21種と多く、テングタケ科は9種で少なかった。ウスキシヌガサタケ、リュウコクヒメベニタケが観察出来て良かった。
6	9	11	日	観察会 No.4	有馬富士公園	北出先生	曇り	土肥	76種	会員14名	8月下旬から適度な降雨があり、多くのきのこが発生し、イグチ科10種、テングタケ科7種、ベニタケ科9種、ハラタケ科7種が観察できた。10月実施より、今回のような9月実施が良いと思われる。
7	9	25	日	観察会 No.5 実習認定行事 ②	大泉緑地公園	北出先生	晴れ	太田・藤井 五家・岡本	36種	講座生11名 会員18名	会員観察会でネームカードを置き、その後を同コースで実習生が回った。キツネノタイマツ、ツバカラカサタケ、ナラタケモドキの群生が見られたが、ヤナギマツタケは無かった。コブツタケも菌根菌であること、コフキサルノコシカケの上部から出る疑似胞子などの講義が興味深かった。昼食・同定場所をバーゴラ下に変更した。
8	10	9	日	観察会 No. 6	室池園地	北出先生	曇のち雨	田中(靖) 大下	70種	会員18名	天候を考慮し、集合場所と内回りコースを2時間観察。例年より遅い時期だったので秋のきのこのナラタケやフウセンタケ科など、変わった顔ぶれのものが観察できた。キツネノエフデ、キンチャクタケ、シロスズメノワ、シロニカワタケなどが印象的だった。
9	11	13	日	観察会 No.7 (芋煮会は中止)	明神ヶ岳	升本先生	雨	河村・木村 小森	40種	会員19名	雨の中、終始時間に追われながらの観察会で、観察時間は実質1時間半ほど。谷川きのこ園の協力により雨に当たらずに昼食、同定会ができた。アカキクラゲ科5種、子囊菌7種など小型菌が多かったが、チャナメツムタケやキチャホウライタケなどの常連も見られた。芋煮会がなければ実施方法の再考が必要。
10	12	18	日	役員会、学習会②	高槻市立生涯 学習センター	升本先生	—	河村 木村	—	役員会15名 学習会23名	役員会では22年度事業報告・決算報告、23年度活動計画・予算案を検討。主担当の決め方、天候判断基準等について討議。学習会前半は升本先生の地衣類についての講演。藻類との共生という独特の生き方を選んだ地衣類の種類やメカニズムを知り、菌類の多様性を改めて感じさせられた。後半は大下会長より合宿の下見報告がなされ、次年度実施の方向性が示された。
11	1	15	日	実習認定行事 ③	谷川きのこ園	—	—	五家・岡本 河村	—	講座生18名 会員9名	講座生希望者34名を18名に絞っての実習となった。穴あけ作業、植菌作業、パラフィン封じ作業の実習ときのこ学習の2グループで進行。時間が少ない中でも講座生は熱心に取り組めた。懇親会は今回も中止とした。谷川きのこ園に感謝!
12	2	19	日	発表会、学習会③ 総会	長岡京市中央生涯 学習センター	齋木先生	—	河村 木村	—	会員25名	午前中は発表会、午後は学習会、及び総会。
別枠	7	29 30	金 土	合宿下見	大山・三の沢 奥大山休暇村周辺	—	晴れ	大下・平澤 幸野・松尾 (土肥)	—	会員3名	ツキヨタケの発生候補地としては三の沢の確立が高いと思われる。宿舎は3人部屋とする。＜推奨コース＞第1日目＝加西SA→勝央SA→(米子道)→三の沢(観察地)第2日目＝奥大山休暇村周辺観察→11:00宿舎出発→鍵掛峠→14:40院庄IC(中国道)*湯原経由は無し
	9	4	日	自主観察会	奈良公園	—	晴れ	松尾 西尾	—	会員11名	いつも見られるムラサキヤマドリタケ、アカヤマドリ、チャタマゴタケなどの大型菌は無かったが、新しいきのこが多種観察できて、興味深かった。アリノタイマツの群生は場所を変えていたが健在だった。
	10	22	土	自主観察会	橿原神宮	—	晴れ	松尾 西尾	—	会員9名 非会員3名	森の中ではテングタケ科を始め、オオワライタケ、アイカワタケ、カラカサタケなどの大型菌が各所で観察できて見応えがあった。秋晴れの境内には七五三を祝う家族連れもいたので参拝客へ配慮をしながら観察した。